令和元年度　輪島市立鳳至小学校　中期 学力向上プラン

プラン名　互いに関わり合いながら集中力アップ！（７０％）

*12か条＋（プラス）*

*６条*

１　授業づくり

⑴　現状・課題（Ｒ）

|  |  |
| --- | --- |
| 課題 | 現状（科学的データ） |
| 自分の考えを表現  しようとする意識  は高まってきたが  記述内容は適切で  はない。 | ・児童アンケートの結果から「自分の考えを書いている」と回答した児童の割合は、全体の８５％だが、ノート検証の結果、課題に沿って考えを書いている児童の割合は６１％、研究授業のねらいを達成した児童の割合は１９％である。（児童は自分の考えを書こうとする意識は高まっているが、記述内容は授業のねらいに合ったものとは言えない。）  [要因]  ・考えを書かせるだけの取組となってしまった。  ・教師が、児童にどんな考えをどのように書かせたいか、具体イメージをもって指導できていない。  ・学びのプロセスに重点目標である「聴く」ことがいかされていない。  　（プランと指導の整合性がとれていない部分がある。） |

⑵　計画と実行（Ｐ・Ｄ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 中期目標 | 具体的取組 | |
| 授業のねらいに沿った考えを適切に書くことができる。 | ・授業の始めと終わり（適用問題も含める）に自分の考えを書く時間を設定  　する。（「個→集団→個」の思考時間の確保）  ・「Let’s　Try（＝用語、既習内容、資料の見方・考え方、児童の考えの手がかりを示すもの）」の活用を精選する。  ・ペアやグループ学習による学び合いを中心に、「聴く」・「話す」ルールを  　徹底する。 | |
| 評価項目 | | 評価  （結果） |
| ・授業の終わりに課題に対しての考えを適切に書いている児童の割合。（研究授業７０％）  ・児童アンケートで「自分の考えを書くことができる。」にA「よくあてはまる」と回答した児童の割合。（７０％…前期「よくあてはまる」「あてはまる」61％）  ・ノート検証の結果、自分の考えを適切に書いている児童の割合。（７０％） | |  |

⑶　検証と改善策（Ｃ・Ａ）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 評価項目（誰が，いつ） | 結果 | 改善策 |
| ９ | □検証シート  （５年研究授業　１８日）  □ノート検証（体制、第３週） |  |  |
| 10 | □検証シート  （５年研究授業）  □ノート検証（体制、第３週） |  |  |
| 11 | □検証シート  （１年、４年研究授業）  □ノート検証（体制、第３週） |  |  |
| 12 | □児童アンケート（体制、第２週） |  |  |

２　基盤づくり

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 中期目標 | 具体的取組 | 評価 |
| ・条件に沿って自  分の考えを書くことができる。  ・話をする人の方を見て、聴く。 | ・「条件設定を工夫した短作文の取組」を継続する。  　　　　　　　　　　　　　（月に１回検証）  ・スタディーマナーのうち、聴くことを最重点項目として取り組む。　　　　　　　　　　（研究授業７０％…前期６０％） |  |